



釧路体協だより

第75号

発行 釧路市体育協会
平成30年9月30日

永年の功績を讃えて

釧路市体育協会表彰式 8月22日(水)

功 勞 賞 ^{なか}中 ^{むら}村 ^{まさ}政 ^お男 氏 (67歳) 釧路ソフトテニス協会 副会長



昭和49年に釧路ソフトテニス協会に加入。以来現在まで44年間のうち、常任理事を皮切りに副理事長、理事長、副会長を39年務め、役員として率先して協会組織の安定・充実・発展に寄与され、関係団体との連絡調整及び大会運営を行うなど多大な貢献をされました。

日本体育協会公認スポーツ指導員、日本ソフトテニス連盟公認1級審判員の資格を有し、自身の資質向上とともに後進の指導にも尽力されました。

また、各種全道大会の誘致活動に力を注ぐとともに、地元選手の育成強化やソフトテニスの普及啓発のため、全道大会となる「北海道たんちょう杯釧路大会」を開催するなど、ソフトテニス競技の普及振興に大きな功績を残してこられました。

表彰式で釧路市体育協会張江会長は、会場の選手らに「スポーツを愛する皆さんのエネルギーが釧路のスポーツを盛り上げてくれている」と述べるとともに、中村氏にはその功績を讃えつつ、「軟式庭球と呼ばれた時代からソフトテニスを楽しむ、長年スポーツ振興に努めてこられた。これからもソフトテニスの発展に一層のお力添えを」と挨拶しました。中村氏は、「これまでの経験を生かし、釧路市のスポーツ振興に更なる情熱をささげたい」と謝辞を述べました。

北海道体育協会 来年4月に名称変更

公益財団法人北海道体育協会では「スポーツの推進・振興、道民の体力向上とスポーツ精神の高揚」を目的に事業を一層進めていくうえで、「体育」では包括することができないスポーツ・運動にも目を向けて、幅広く事業を展開していく意思を強く示していくとともに、北海道151年目から始まる新たな一歩を進め、先人の功績を次代に引き継ぎ新たな歴史を築くため、本年6月20日に実施した平成30年度定時評議員会において、名称変更に係る議案を

提出し承認されましたので、来年の平成31年4月1日に「公益財団法人北海道スポーツ協会」となります。

また、公益財団法人日本スポーツ協会はスポーツという文化を後世に継承し、体育の概念を含んでいる広義のスポーツという言葉をもって、活動に取り組んでいくという意思を示すため、本年4月1日に日本体育協会から名称変更しました。

釧路市秋季体育祭総合開会式

スポーツの祭典開幕 31種目に総勢6,000人

第73回釧路市秋季体育祭の総合開会式が8月22日（水）夜、「湿原の風アリーナ釧路」サブアリーナで行われました。

各競技の昨年度優勝チームの選手ら約230名が駆け付け、種目ごとに市長杯を返還し、優勝楯を受け取りました。

優勝杯の返還後、大会長挨拶で、川畑浩士生涯学習部長は「選手の皆さんは、持てる力を十分に発揮し、熱戦を繰り広げて下さい」と激励しました。

その後、参加者を代表して、釧路フットサル連盟所属の斉藤凌太選手が「日頃の練習の成果を、自分の目標に向かって発揮できるよう正々堂々、全力で挑むことを誓います」と力強く選手宣誓を行い、会場から大きな拍手が湧き起りました。

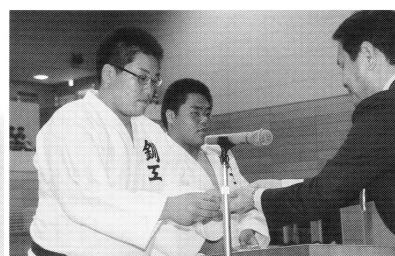
この体育祭は、軟式野球、ソフトテニス、卓球、クレール射撃など既に開幕した種目もありますが、多くの大会は9～10月に集中しており市内各所で熱戦が繰り広げられます。



開会式会場



優勝杯返還



優勝楯授与



大会長挨拶



選手宣誓

平成30年度北海道体育大会（柔道）

釧路市開催は44年ぶり

柔道の国民体育大会北海道予選会を兼ねた平成30年度北海道体育大会が7月15日に湿原の風アリーナ釧路で開催されました。

釧路市開催は昭和49年以来で、452名が成年男子の部、少年男子の部、女子の部の各階級別に出場し、トーナメント方式で全道一の座を争いました。

各階級の優勝者のみが全国出場権を得ることができる大会で、各優勝者によって北海道を代表する団体メンバーを構成し、10月に開催される福

井国体に出場します。

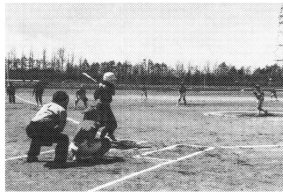
釧路市の選手も多数出場し、少年男子60キロ級に出場した釧路江南高校の佐藤大空選手が3位と大いに健闘しました。大会にはふるさと選手制度により、関東の大学などからも出場しており、会場は熱気にあふれていました。



TV中継に期待して

釧路管内ソフトボール協会

会長 笠井 龍司



8月、世界女子ソフトボール選手権大会が千葉で開催され、試合の様子が連日テレビで中継されました。結果的に日本は準優勝でしたが、これらの動きは、

東京2020につながる情報提供だと思います。年々低迷する当地ソフトボール協会等関係者に何かの刺激になることを期待するものです。

さて、本協会は昭和38年発足した釧路ソフトボールを昭和59年に正式名称を釧路管内ソフトボール協会として活動し現在に至っています。

今年度登録チームは男子5チーム、女子6チーム、登録協会町等は白糠町、浜中町、阿寒、音別で人数も含め年々減少が続いている現状です。

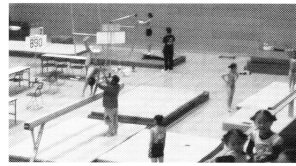
事業は5月から10月までに協会が主催する2つの大会を中心に9大会あり、1チーム20数試合を消化し楽しんでいます。しかし、チーム減少の危機感は例年の通りでその策を考えてはいるが…。協会も高齢化が極限を越えている状況で大きな課題です。チーム、協会等には課題もありますが、日常的な市民の動きを見ていると潜在的なソフトボールファンが多くいます。協会は誰もが楽しむため、日暮れソフトボールを実現する努力をしたい。

(文責 理事長 坂本 久吾)

新大会ウインターカップ

釧路体操連盟

事務局長 佐藤 憲敏



釧路体操連盟の現加盟団体はくしろ体操クラブ、すだジュニア体操クラブ、シュピール体操クラブ釧路、なかの体操クラブと阿寒高校、北陽高校が活動しています。活動会場は元駒場小学校体育館、釧路専門学校体育館、湿原の風アリーナ釧路、釧路教育大学、遠矢にあるなかの体操クラブアリーナで幼稚園児から高校生一般まで選手約150人、指導者15人が日々体操の普及と競技力向上に邁進しています。

そのなかで、昨年から年度末に始めた新大会釧路Jr体操ウインターカップを体操の普及に貢献し、釧路の体操のレベル向上に貢献できる大会にしたいという思いのなか、各クラブの指導者が協議を続け、新しいアイデアを盛り込んだ大会にしようとしています。

普及に関しては種目ごと基準を定めて金、銀、銅賞を授与し、大会に対する興味とやる気をもたせ、より多くの子供に体操を親しんでもらうことを目標とし、競技に関しては女子で段違い平行棒を奨励し、男子は今まで4種目で行っていた競技を平行棒と吊り輪を追加して6種目で行うことにより、全国レベルに近づく大会にしていきたいと日々協議し開催します。

青少年(小・中・高)への普及

釧路銃剣道連盟

公認スポーツ指導員 塩見 裕之



全盛期は会員数も約400名(9割が自衛官)ほどでしたが、少子化の影響もあり、現在では65名(9割が自衛官)まで激減してしまい、青少年(小・中・高)

については皆無であり、連盟としても危機感をもって対策を検討中であります。

近年、銃剣道は文部科学省の認可を受け、中学校の必修科目である武道のなかの選択科目に加えられました。連盟としては、各学校に積極的に出向き、銃剣道の素晴らしさを子ども達に知っていただきたいと考えております。

北海道では知名度は低いですが、全国的な国民体育大会(隔年開催)や全日本少年武道錬成大会(東京都)や全国高校生大会(宮城県)に毎年道内から選手が参加しています。

道内でも北海道少年・少女大会や北海道青少年武道錬成大会と毎年開催されております。

ぜひ、少年団発祥の地である釧路(小・中・高)から参加できるように連盟としましても努力していきます。また、釧路で青少年大会が開催できるように日々精進してまいりたいと思います。

創立50周年を迎えて

釧路ハンドボール協会

会長 山本 直樹



釧路ハンドボール協会は、平成29年度で「創立50周年」という節目を迎えることができました。

この50年間、数々の大会で好成績をあげ、中学校では「全国中学校大会」

で北中学校が2位、鳥取中学校が3位、高校では「高校総体」「高校選抜大会」に湖陵高校、江南高校、商業高校が出場、一般チームでは湖陵クラブが「国民体育大会」に平成25年、26年と連続出場するなど、釧路のハンドボールのレベルが全国に肩を並べるまでに成長しました。

また、平成21年から発足し活動している小学生チーム「メーベン釧路」も平成27年「全国小学生大会(京都府)」に北海道代表として出場しました。そして、今年度も北海道代表を勝ち取り8月に出場しております。

今後は、平成31年度に「日本リーグ開催(予定)」、小中学生、高校生対象の「講習会」の実施など、少しずつですが釧路のハンドボールが盛り上がっていくよう協会としても努力をしていきたいと考えております。

平成30年度 釧路市体育協会役員

高橋優夫専務理事の辞任に伴い、平成30年度評議員会において新専務理事が選出されました。また理事の一部に変更がありましたので、平成30年度役員体制についてお知らせいたします。

役職名	氏名	選出団体
名誉会長	清水 幸彦	バウンドテニス・ハンドボール (名誉会長)
会長	張江 悌治	陸上 (会長) ソフトボール (名誉顧問)
副会長	栗林 定徳	スケート (会長) ボート (名誉会長)
副会長	北村 剛	阿寒支部 (支部長)
副会長	足立 功一	アイスホッケー (会長)
副会長	菅原 賢司	柔道 (会長)
副会長	山辺 文彰	ハンドボール (理事長)
専務理事(新任)	海老名正一	学識経験者
理事	早坂 勝則	阿寒支部 (副支部長)
理事	眞籠 敏夫	音別支部 (支部長)
理事	大道 裕昭	陸上 (理事長)
理事(新任)	小林 祥江	軟式野球 (副理事長)
理事	中村 政男	ソフトテニス (副会長)
理事	山本 満	卓球 (理事長)
理事	朝木 忠行	バレーボール (副会長)
理事	金子 洋昭	バスケットボール (理事長)
理事(新任)	武隈 肇	スキー (副理事長)
理事	伊藤 寿章	柔道 (理事長)
理事	平田 政之	スケート (理事長)
理事	藤原 節男	剣道 (会長)
理事	三森 敏司	サッカー (理事長)
理事	坂本 久吾	ソフトボール (理事長)
理事	笹川 賢俊	ハンドボール (副理事長)
理事(新任)	小松 右視	アイスホッケー (副理事長)
理事	谷口 秀生	バドミントン (理事長)
理事(新任)	佐藤 和明	空手道 (理事長)
理事	松下 幸記	パークゴルフ (会長)
監査	橋本勢津子	弓道 (会長)
監査	佐藤 茂樹	ボウリング (副会長)
評議員	加盟団体から各1名 阿寒・音別支部から各2名	

設立60周年

祝 釧路市体育協会音別支部

釧路市体育協会音別支部 (眞籠敏夫支部長) は、9月15日音別町コミュニティセンターで設立60周年記念講演、祝賀会を開催しました。

音別支部は昭和33年10月に「明るく豊かな生活を営むために、町民の健康増進と気力・体力づくりを目的に、手軽に家族ぐるみで参加できる協会」として町内会や事業所により音別町体育協会を設立し、釧路市との合併により現在の名称になりました。

記念講演は札幌医科大学 武田秀勝名誉教授が「老化速度は、ゆっくり 健康速度は、なが〜く」と題し、支部関係者、地域住民等多数が参加のなか開催されました。引き続き開催された祝賀会では眞籠支部長が「スポーツの推進と普及活動を通じて、地域の活性化に寄与していきたい」とあいさつし、釧路市体育協会張江会長が「歴史ある音別支部が今後もスポーツ振興において更なる活躍をお願いしたい」と祝辞を述べ、和やかな会話が弾むなか盛会裏に終了しました。



記念講演



祝賀会

平成30年7月豪雨 被災者義援金

被災された方々を支援するため、加盟団体・支部皆様に義援金のご協力をお願いしたところ、総額214,025円に達し、窓口である(公財)北海道体育協会に振り込みました。被災地の速やかな復興を心から願うものです。

編集後記



全世界が熱狂したサッカーワールドカップ・ロシア大会はフランスが20年ぶり2度目の優勝で世界の頂点にたった。▲日本代表は開幕2カ月前にハリルホジッチ監督が突然解任され、西野ジャパンが誕生。この時期の交代は非常に異例で、過去の開幕半年前の監督交代データーから一次リーグ突破は非常に厳しいとの予想であった。▲初戦、4年前惨敗した相手コロンビア戦は2対1で雪辱し「サランスクの奇跡」を起こした。▲一次リーグ突破の懸ったポーランド戦では0対1という状況の中、今大会から採用されたフェアプレーポイントでの上位狙いで、攻撃姿勢を捨て決勝トナメント進出を決めた。観戦をしていて非常に違和感をもった10分間であった。▲自力ではなく他力を選択した執念の西野采配。刻一刻と変わる状況の中で迫られた判断は同時に危険な賭けであり、究極の選択である。結果を求められる勝負の世界とはいえ、何かと考えさせられる試合でもあった。結果として見事な西野采配。観戦する側からすると眠気との勝負でもあった。▲9月森保ジャパンが始動。初戦になるキリンチャレンジカップ・コスタリカ戦3対0で完封勝利。4年後そして若手の活躍が楽しみである。